2025年

月刊 星空の散歩道 5月号

5月上旬 21時ごろ
5月下旬 20時ごろ の空

ステラナビゲータ／
株式会社アストロアーツ

月や惑星・星座を
探してみよう！

5月の星空

☆宵空の主な星座と明るい星☆

西の空に冬の星座が、南の空に春の星座が、東の空に夏の星座が見えています。

＜西＞ **こいぬ座**（プロキオン）、**ぎょしゃ座**（カペラ）
ふたご座（カストル、ポルックス）、**かに座**
＜南＞ **しし座**（レグルス、デネボラ）、**おとめ座**（スピカ）、
うしかい座（アルクトゥルス）、**からす座**
＜東＞ **てんびん座**
＜北＞ **北極星**、**おおぐま座**、**こと座**（ベガ）

☆天文トピック☆

5月4～7日
火星とプレセペ星団が大接近

火星とかに座のプレセペ星団が近づいて見えます。プレセペ星団は星がまばらに集まった散開星団です。双眼鏡で火星のあるあたりを見てみましょう。

5月23日　**月が土星と並ぶ**
5月24日　**月が金星と並ぶ**

明け方、東の空で細い月の近くに土星・金星が見えます。

☆月の形の変化☆

5月 4日	上弦	◑
5月13日	満月	○
5月20日	下弦	◑
5月27日	新月	●

☆5月の惑星☆

木星…日没後、西の空低く
火星…日没後、西の空
土星…明け方、東の空
金星…明け方、東の空

＜天文コラム＞　カレンダーの曜日と天体

カレンダーの中にある1日・1ヶ月・1年という時間の単位は、それぞれ、地球の自転周期、月の公転周期、地球の公転周期という天文学上の概念がもとになっているものですが、他にも名称が天体由来という時間の単位に「七曜」があります。七曜とは、月曜日・火曜日など1週間の曜日のことです。

一説には古代メソポタミアで七曜が発明されたと言われています。古代メソポタミアでは月の満ち欠けから暦を作っていましたが、新月～上弦の月、上弦の月～満月、満月～下弦の月、下弦の月～新月という月の形の変化にそれぞれ約7日を要することから、7日をひとつのまとまりとする単位が生まれたと考えられています。

時代が進み、古代ローマでは、黄道上を運行する太陽、月と当時知られていた5惑星（火星、水星、木星、金星、土星）の7つの天体を曜日と結び付け「木星の日」などと名付けていました。

このように曜日に天体名をあてはめることは、社会生活で利用しやすかったため、他の国にも取り入れられ、洋の東西を問わず全世界で普及することになりました。

伊丹市立こども文化科学館　発行日　2025年4月20日
〒664-0839 兵庫県伊丹市桑津3丁目1-36　TEL：(072)784-1222